

三十九名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生七十三名、一人一人の思いを代表し、心から感謝とお祝いを申し上げます。

突然切り取られてしまった一週間。私達在校生にとっても、先輩方と共に学校生活を送ることができると思っていただけに、残念でなりません。

先輩方はこの一週間、とても不安な日々を過ごしてきたことと思います。ですが、今、卒業証書を手にした先輩方の表情からは、その不安を乗り越え、自分の手でこれからの道を切り拓いたことへの達成感にあふれているように感じます。改めて先輩方の心の強さを感じます。

思えば、先輩方はいつも私達の前を歩き、時には優しい言葉で励まして下さり、時には、その背中で私達を引っ張って下さいました。今考えてみると先輩方はいつでも私達に、お手本を示して下さいました。

県大会出場を目標として掲げ、毎日の練習に一生懸命に取り組み、そして全力で戦った中総体や吹奏楽コンクール。

全校の中心となつて成功させた学校行事。

紅組・白組それぞれが団結力と士気を高めようと、工夫し、新しい応援の形を造りあげた運動会。

団結する素晴らしさを体現させた文化祭合唱コンクール。

そして、三大伝統の一つである防災学習。今年度は「伝承」という新しい取り組みが始まりました。先輩方の「伝えたい」という熱い思いを、一緒に活動することで強く感じました。また、豊富なアイデアや、話し合いをまとめるリーダーシップなど、たくさんの方の事を学びました。

私達に数多くのお手本を示して下さいました先輩方は、とても頼もしい存在でした。

中でも私達がお手本にしていたのは、先輩方の「優しさ」です。学級・学年の仲間同士が仲良いだけではなく、私達後輩に対しても、いつも優しく接していただきました。先輩方から温かい励ましの声を掛けていただいたことで、私達は毎日楽しく過ごすことができました。

私達は先輩からいただいた、たくさんの方の「優しさ」を階上中学校の新しい伝統として引き継ぎ、後輩たちへつないでいきたいと思えます。

また「三年生を送る会」の中で、先輩方からいただいた階中伝統のエールは、まさに「圧巻」の一言でした。あの魂の入ったエールは、これからの私達の目標です。私達はあのエールを必ず超えて見せます。

先輩方の晴れの門出を、在校生全員でお祝いすることは叶いませんでしたが、先輩方から教えていただいたことを受け継ぎ、この階上中学校をますます発展させることを約束します。

今、先輩方の前には、無限の可能性が広がっていると思えます。そして先輩

方は、この階上中学校で思い描いた夢に向かい、自らの力で羽ばたいていくこととでしょう。しかし時には、大きな苦勞や逃げ出したくなることもあるかもしれません。そんな時は、この階上中学校で過ごした日々を思い出してください。この三年間で積み重ねたことが自信となり、壁を乗り越える原動力となります。先輩方なら、必ず自分の夢を実現させると信じています。

最後になりますが、先輩方の今後の御健康と御活躍、御多幸を、在校生一同、心からお祈りし、送辞といたします。

令和二年三月七日

在校生代表 山内 且稀